

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立花背小中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(小中9年間の一貫教育による確かな学びの構築)	2. 豊かな心の育成(施設一体型一貫校・へき地小規模校の特性を活かした協働活動)
3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 体力の向上)	

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価	
・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						平成26年9月1日		平成26年9月18日	
・アンケート実施結果, その他指標の結果について整理						学校評価委員会		学校運営協議会 学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策	
1	確かな学力	わかる授業の創造	・各教科での言語活動のさらなる充実 ・全体及び各期の授業研究	・京都市学習支援プログラムの結果 ・授業研究会の実施回数	ジョイントプログラム第5回[小学校総まとめ]国語の正答率が前回比で13%上昇, 算数は全市平均を大きく上回る	・算数では算盤学習と連携した取組の効果がでていることも窺える。 ・「家庭ではしっかりと読書をしている」保護者の割合は60%で, 習慣化しているとまでは言えない。 ・「家庭学習」のとらえ方に, 児童生徒と保護者との間に差異が認められる。	・学校図書館の整備が進んでいる様子がよく分かります。本好きの子どもが増えるといいですね。	・家庭学習の習慣や家庭での読書習慣を身に付けさせるのは, 保護者の声掛けが大切だ。運営協議会として地域から保護者に働きかけることを考えていきたい。	
		読書の習慣化	・毎日の朝読書の実施 ・100冊読書の取組 ・学校図書館の整備	・朝読書の時間にはしっかりと読書をしていますか	「できている」児童生徒の割合は94%				
		家庭学習の習慣化	・学年に応じた課題提示 ・テスト前をはじめとする家庭学習計画表の取組	・家庭学習をしっかりとしていますか	「できている」児童生徒の割合は94%, 「(あまり)できていない」保護者の割合は30%				
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践	・花背ファームの取組 ・「花背学習」における地域の伝統や文化にふれる活動	・「学校行事や地域の行事に進んで参加していますか」	「している」児童生徒の割合は91%	・「花背学習」における様々な体験活動により, 地域に対する思いが深まってきている。 ・登下校時に自らあいさつする場面が増えてきた。 ・9年生にとっては, 下級生を思いやる心が深まり, リーダーとしての自覚が高まるよい機会となっている。下級生のよいモデルにもなっている。	・花背学習を通して学校がどのような子どもを育てたいのかが地域にしっかりと伝わっていないのではないか。 ・挨拶については家庭での模範の部分が大きい, 子どもは人と接することに対してあまり慣れていないということもあるのではないかと。地域の活動に参加する中で人間関係がつけられていく面もあるので, 子どもをどんどん出させていこうという親の意識も大切である。	・地域に対して花背学習9年間のカリキュラムを示してもらうことで, さらに協力できることを考えていきたい。 ・地域の大人も子どもも一緒にすることができる行事を学校と協力して企画できればと考える。	
		あいさつの励行と望ましい言葉遣いの徹底	・登下校時の声かけの取組	・「友だちや教職員の方や地域の方に進んであいさつをしていますか」 ・丁寧な言葉遣いができていますか	児童生徒の割合はそれぞれ, 「している」88%, 「できてい」85%, 保護者の割合はそれぞれ, 「している」80%, 「できている」30%				
		支え合い高め合う集団づくり	・異年齢集団による縦割り活動の取組	・児童生徒の変容 ・振り返りアンケートの記述内容	「同じ目標をもてはみんながまとまることを学んだ」「みんなをまとめることがとてもむずかしいことを知った」				
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	・毎日の健康観察カードの取組 ・保健指導	・「早寝・早起きなど, 規則正しい生活をしていますか」	「している」児童生徒の割合は82%	・毎日の健康観察カードへの記入により, 就寝及び起床時刻, 朝食に対して関心はもっている。 ・休み時間や放課後にグラウンドで元気に遊ぶ児童生徒が増えている。	・保健だより, 学級通信, 学校だより等でも積極的に取り上げ, より高い割合をめざす。 ・運動することの楽しさや喜びをより一層味わわせるために, 児童生徒自身による行事の企画実施を行う。	・川の水で水泳学習をしていることが気になります。衛生基準は満たしていますが, 周辺の環境に学習が依存するようでは不安を感じます。	
		体力の向上	・遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・4年生からの運動部活動の実施	・しっかりと運動をして, 体力をつけていますか ・新体力テストの結果	「つけている」児童生徒の割合は88%				
4	独自の取組	小中一貫教育の充実と発展	・期の取組 ・学習の柱部会の取組 ・花背わくわくバンドの取組	・期の会や学習の柱部会の実施回数 ・演奏発表回数	・期の会を月行事の中で定例化 ・2回(運動会と森都市フェスティバル)の発表 ・夏季休業前までの1日平均アクセス数50回	・日常的な情報交換も含め, 期の会の実施回数の増加が取組の充実につながっている。 ・これまでの一貫した取組とあわせて, 専門性ある地域の方々からの支援により, 演奏に対する自信が深まっている。	・学習の柱部会の取組をさらに充実させる。 ・既存の曲の完成度を高めるとともに, 新しい曲への挑戦を通して意欲をさらに高める。 ・ホームページ担当者だけでなく, 各教職員がそれぞれの立場(学年など)から発信することによって, より広く深く学校のことを伝えていく。	・演奏レベルは確実に上がっていると感じられる。 ・開校時からの特色の1つである1年生からの英語学習の取組もさらに進めてほしい。 ・地域の通信環境などの面から考えて, ホームページだけでなく学校だよりもさらに充実してほしい。	
		情報発信の充実	・積極的なホームページの更新 ・学校だより等の全戸配布	・学校ホームページのアクセス数 ・全戸配布回数					